進学通信
ステップゼミナールだより
ホップ・ステップ
10 October
第192
2022年10月1日発行

今日から10月です！

朝夕の気温が下がって来てすっかり秋です。新型コロナの感染も収まりつつはありますが、まだ安心できる状態ではありません。そして季節柄、インフルエンザの流行も心配されます。

この時期は朝夕の気温と日中の気温差が大きく、体調を崩しやすくなります。体調管理に十分注意をして下さい。

特に受験生は3月2日の高校入試まで150日余り、10月、11月と学力テストや道コンがある入試スケージュールの第二段階です。

その学力A・B・Cや道コンの結果をふまえて、12月、1月、2月の3ヶ月が志望校へ向かっての第三段階、本当の意味での受験勉強です。

したがって入試まではまだまだ時間は十分ありますが、あっという間に時間は過ぎていきます。とにかく、志望校へ向けて計画的に苦手教科、苦手単元の勉強を計画的に積み重ねる事です。

勉強が出来るとか出来ないという問題ではないのです。目標に向かう意識と覚悟の問題なのです！

小・中・高生の授業中のようす

27期生の早川翔馬君北陽高校卒業後に就職したところ辞めて、本当に自分のやりたい道へ進む決心を！

25期生の福士千悠さん、来年大学卒業で、北海道教育局への就職が内定しました。勤務地決定は3月だそうです

公立高等学校配置計画

（令和5年度（23年度）～7年度（25年度））

策定の考え方

1　趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和5年度（23年度）から令和7年度（25年度）までの高校配置の計画を策定するとともに、令和8年度（26年度）から令和11年度（29年度）までの見通しを示したものである。

2　中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和5年（23年）に41116人、令和6年（24年）に90946人、令和7年（25年）に39977人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3　基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成30年（18年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

（1）総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

（2）単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

（3）アンビシャススクールの導入

多様な学校選択幅のある学区において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、一人一人の社芸的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むことに重点を置くアンビシャススクールの導入を進める。

（4）普通科新学科の設置

学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科及び地域や社会の将来を担う人材を育成し、現在・将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科の設置を進める。

（5）職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

（6）地域連携特例校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ2分1、専門学科はおよそ4分1）第1学年1学級の高校を地域連携特例校とし、協力校との連携や北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業の配信など、教育活動への支援等により、教育環境の充実を因る。

釧路商業は学級減にともない流通マネージメント・会計マネージメント・情報マネージメントの3科に。釧路湖陵は普通科4学級と大樹（1学級）は普通科新学科へ転換される（転換後の学科は検討中）

R6 (2024)	釧路	道	釧路湖陵	全	※普通科学科	5	4	−1	6学級→5学級
		道	釧路商業	全	※職業科学科	4	3	−1	4学級→3学級
		道	釧路明輝	全	総合	5	4	−1	5学級→4学級
		道	釧路東	全	普通	3	2	−1	3学級→2学級
	（小計）		4校					−4	

生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るための配置計画となっていますが、実際は生徒数の減少による学級減に他なりません。釧路市の配置計画では上の表のように令和6年に4校で1学級ずつ、4学級減となります。しかし問題はこれではなく、今や高卒は当たり前です。高校さえ卒業すれば何とかなる時代ではありません。

釧路市は基幹産業が無くなり、企業がどんどん減っています。高卒で就職しても給料の手取りは15、6万円です。18の春は皆さんの人生に大きく影響します。将来をよく考えて進路を決めることです。

高校入試まであと153日です！

■10月の予定■

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	休塾							休塾	スポーツの日　休塾			◆学力Bテスト◆			休塾							休塾			◆附属3年定期テスト				休塾

携帯・スマホ持ち込み禁止！　高校入試まで153日！

過保護・過干渉は子供をダメに！　大きな声であいさつを！

在籍する生徒の所属校
小学校　愛国・芦野
中学校　青陵・美原・景雲・附属・富原・遠矢
高　校　湖陵・江南・東・高専

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP　https://stepsemi.com/　Mail：stepsemi@gmail.com

＜高校受験の心構えは？　今やるべきことは？　変更点は？＞

高校受験は、多くの中学３年生にとって初めての進路選択の機会となります。２０２３年度に入学する生徒対象の北海道の公立高校の一般入試は来年３月２日、合格発表は３月１７日です。本番まで９カ月を切りました。３年生のみなさんには、不安や疑問も多いのではないでしょうか。進路選択に向けて必要な心構えや、やっておくべきことを探りました。（報道センター　高田かすみ）

まずは２２年度の北海道の公立高校の入試を振り返ってみましょう。

北海道教育委員会がまとめた最終出願状況によると、全日制と定時制を合わせた平均倍率は前年度比０．０２ポイント高い０．９５倍、全日制は同０．０２ポイント高い０．９８倍で、いずれも過去最低だった前年度からは上昇しました。

22年度入試の募集人員と出願者数

	実募集人員（推薦入試などの合格内定者を除く）	最終出願者数
全日制	27482人	27025人
定時制	1851人	809人
計	29333人	27834人

22年度入試の平均倍率

全　体	0.95倍
全日制	0.98倍
●普通科	1.03倍
●理数、外国語などの専門学科	1.37倍
●職業学科	0.81倍
●総合学科	0.91倍
定時制	0.44倍

公立高校の入試に向けて、公立高校の担当者に願書を提出する中学校の教員（左）＝１月

公立高校の入試に向けて、公立高校の担当者に願書を提出する中学校の教員（左）＝１月

２３年度の公立高入試には変更点もあります。

北海道教育委員会によると、推薦入試の出願に出身学校長の推薦が必要なくなり、全ての学校で生徒が自己推薦できるようになります。これまで、学校長の推薦を得るための生徒の選考基準は各中学校が定めており、高校側が求める生徒像とミスマッチが生じるケースがあったといいます。

道教委は、自己推薦について「生徒自ら進路を切り開いてほしい」としています。札幌市内の中学校で進路指導を担当する教員は「生徒が、高校に自己アピールできる機会が増える」と歓迎しています。このほか、出願変更の際の学科の制約も廃止されます。

道内の中学校によると、今から夏休みにかけては、情報収集を進める時期です。夏休みを中心に、高校などが開く説明会や学校のパンフレット、受験情報誌、先輩の話などが参考になります。

■周囲に相談した上で自分自身が結論を出して

夏休みを終えた２学期は、希望する進路を選択する時期に入ります。年内をめどに最終決定することになります。北海道内の中学校の進路指導の担当教員らによると、保護者や教員などと十分に相談した上で、生徒自身が、よく考えて結論を出すことが重要です。生徒が、保護者や教員と相談する際のポイントは、自分の関心や学力、就きたい職業、やりたいこと、家庭の経済状況や保護者の考えなど。疑問や不安は十分に相談し、助言を受けるといいでしょう。最終決定に向けた三者懇談で、生徒と保護者の意見が合わず、もめることもあるようです。生徒と保護者の意見が一致するよう話し合いを深めていくことが必要です。

生徒の進路選択に向けて家庭で留意する点

- 不安や疑問、希望などについて、生徒が意見を言いやすい雰囲気をつくる
- 保護者の希望を生徒に押し付けない
- 生徒の適性や学習状況を理解する
- 保護者も、高校の説明会に出席するなど、情報収集をする
- 中学校と、生徒の状況や希望について十分に情報共有する

保護者は家庭でどんなことを心がけるといいでしょうか。

重要なのは、進路選択に向けた不安や疑問を生徒が言い出しやすい雰囲気をつくること。保護者として、希望や理想もあるでしょうが、意見を押し付けない姿勢を心がけることも大切です。ある教員は、学校とも、生徒の状況や希望について十分に情報を共有しておくよう勧めています。

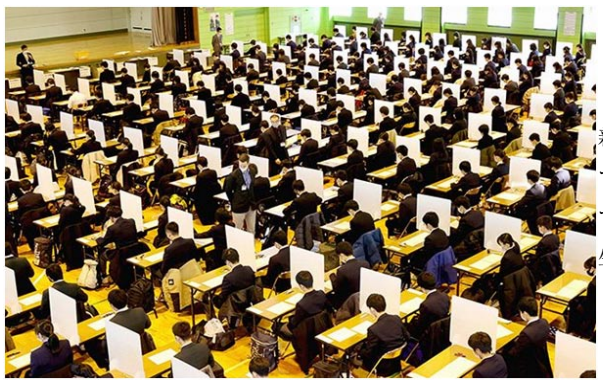
キャリア教育に詳しい京都大総合博物館の塩瀬隆之准教授（49）に、進路選択を控えた中学生や保護者に向けて、進路選択について聞きました。

■好きなことの周辺にキャリアがある

高校受験は、大学受験や就職活動と同じぐらい人生における重要な選択です。

サッカーの強豪校に行くか、進学校に行くかで迷ったとします。「プロは無理だから勉強しなさい」という大人がいれば、それは知識不足です。プロになるか、諦めるかの２択ではありません。高校生の時までは頑張って、その後に違うことをしてもいい。サッカー好きならスポーツトレーナーなどの仕事もある。好きなことの周辺にはたくさんのキャリア（働く場）があるはずです。

学力テストのようにＡＢＣＤの四つの選択肢があって、どれか一つの正解があるわけでもありませんし、「Ａは１００点、Ｂは０点」などと点数が付いているわけでもありません。



新型コロナウイルス対策として、仕切りが設けられた会場で私立高校の試験に挑む受験生＝２月、札幌創成高校

■自分で選択したという過程や経験が大切

選択肢の中でどれを選んでも、自分の問題として真剣に向き合い、悩みながらも、自分で選ぶことが重要です。自分で選択したという過程や経験が大切です。主体的でなければ、その後、苦しくなったときに後ろ向きになり、言い訳が先に立ちます。何かを諦める原因となってしまいます。

人生は、今ある選択肢が全てではありません。選択した後の自分次第で、いかようにも変わります。究極的に言えば進路「選択」ではなく、周囲から与えられた選択肢にとどまらず、自分が進む道を自分で切り開く進路「創出」と言えるのが理想です。

好きなことを仕事にしている大人の姿も参考になります。雷を見るのが好きだった知人は、雷対策の専門メーカーに入り、雷を予測して街の停電を防ぐ研究しています。宇宙が好きだった知人は、地方公務員などを経て、フリーの「サイエンスコミュニケーター」として「科学と社会の橋渡し」をと宇宙飛行士のインタビューをするなどしています。地方では、仕事が限られ、イメージが湧きにくいかもしれませんが、インターネットなどで情報を集めてほしい。子どもが「好き」を諦めることが減ることにつながるはずです。

■その後の人生の糧に

できれば、中学生のうちからどんな大学でどんなことを学べるのかも知ってほしいと思います。興味のある学問があれば、普段から何を勉強すれば良いのか考えるようになるでしょう。

大学受験や就職活動では、選択の幅がより広がります。中学生の時から、主体的な選択をする経験を積むことが、次の選択の際に生かされます。自分の人生ですから、ずっと考え続ければいいのです。

家庭や学校は「進路選択後の進路指導が大切」と心がけてほしい。理想と現実の差は必ず出てくるでしょう。「なぜそれを選んだのか」「選んだ結果どうか」を子どもに問い続けてみてください。本人が選択の理由を繰り返し説明するうちに、自分にしっくりする表現が出てきて、思いが強まります。たとえギリギリまで迷った末での選択であったとしても、自分の選択を受け入れていくことにつながります。

仮に進学先が理想と違った場合は、その状況で、どんな面白さを見つけているのかなどといったことの話し相手になってください。本人が、今の自分の居場所の良さに気付くことにつながります。

＜取材後記＞

「何かを選択するということは、将来の選択肢を狭めることではない」。京大総合博物館の塩瀬隆之准教授は、取材時に聞かせてくれました。この言葉をそのまま、進路に悩む中学生に伝えたいと思いました。

記者の私はメロンが好きで大学は農学部に進みましたが、理系科目は苦手で、農作業も毎日だとつらい。まさに進路選択により、就職先の選択肢が狭まった気になりました。しかし、「農業をはじめ、地域で生きる人の思いを伝えたい」と考え、新聞記者にたどり着きました。

「『好き』の先には無限にキャリアが広がっている」と塩瀬准教授。ぜひ、好きにこだわり、自分だけの人生を創り出してほしいと願っています。

北海道新聞 06/13